

2. Chung-Ang University

Prof. Jae Sung Leeは(写真3) TFCC再建をone tunnelで、中村俊康先生のデバイスを用いて行っていました。非常にスピーディーな手術で驚きました。

3. Eunpyeong St. Mary's Hospital

中村俊康先生はじめ多くの先生が推薦してくださったProf. Joo Yup Lee(写真5)は6Uとdirect foveaポータルを一皮切で開け掌側アプローチで行うTFCC修復術と、Midcarpal instabilityやSLDに対してscapho-triquetrumをtighteningしてDICを強化する鏡視下手術をみせてくださいました。術後舟状骨は側面像ではっきりと分かる程度に術前より回外背屈し、アライメントが改善していました。全症例でRCJとMCJを鏡視して評価し、状態に応じてDIC強化とTFCC修復を行っていました。Hook plateを用いてdiaphyseal osteotomyとTFCC修復を同時に行う症例も見せていただきました。術後は1時間以上もバイオメカニクスの視点に基づいた診断と治療方針について、詳しく解説してくださいました。

4. Korea University

藤尾圭司先生にご紹介いただいたProf. Jong-Woong Park(写真6)はTFCC修復、母指MCL再建、舟状骨骨折とTFCC修復例、endoscopic CTRと多彩な手術をみせてくださいました。TFCC修復においてTransosseousの骨孔径は3.5mmと大きくソウルでも是非があるようでしたが、デブリの範囲が大きくよりhealingを促せる、自由度があるのでどの領域の損傷でも修復可能で再建は必要ないとの見解でした。Park先生は60例を検討され、茎状突起先端から12mm、骨軸と37度の方向、目標は茎状突起基部から橈側に4mm(橈尺側幅の1/3)がベストだと教えて下さいました。

また、例年のフェローの先生方から伺っていた以上に、施設への送迎を始め昼と夜の会食と、毎日これ以上ないおもてなしをいただきました。大変恵まれた経験をさせていただいたことに心より感謝し、今後この素晴らしい日韓交流の継続と発展に尽力する責務をひしひしと感じた次第です。

最後にこのような素晴らしい機会を与えてくださいました2024年度岩崎倫政理事長、池上博泰担当理事、市原理司国際委員会委員長、そして国際委員会の先生方に心より感謝申し上げます。また今回このtravelling fellowの応募に背中を押して下さった原友紀理事に感謝申し上げます。そして、この魅力的なwrist surgeryに携わることができるまでに指導してくださいました森友寿夫先生、村瀬剛先生、正富隆先生に、この場をかりて厚くお礼申し上げます。



写真4: SUMSUNG HospitalにてProf. Park(左)とProf. Shim(右)



写真5: Eunpyeong St. Mary's HospitalにてProf. Lee(右後方)と一緒に見学したフェロー達



写真6: Korea University Anam HospitalにてProf. Park(中央)と